

11月例会

平群の郷を巡る

11月12日。朝方の寒気に冬装束で防寒態勢。風もなく穏やかな冬日に、寒さも杞憂に終る。

平群（へぐり）とは語音が奇妙だが、古代は辺の国（へのくに）と呼ばれ、北は生駒駅、東は平端駅まで、現代では西に生駒山地、東に矢田丘陵に挟まれた生駒谷の領域を平群町と呼ばれている。

6世紀から7世紀の武烈朝に豪族 平群氏が権勢を誇り、大和朝廷の魁としてこの地を本拠地とする。

先ず、平群族長が眠る烏土塚古墳を訪ねる。ここ平群には70基余りの古墳を有するが最大のもので、当時の権勢を伺う事ができる。

田園地帯を抜けて、旧 石床神社。越木塚と言う高台に、神殿も拝殿もなく朱の鳥居が迎えて呉れる。ご神体は巨大な陰石。神霊は後述の新 石床神社に遷座されているが、子孫繁栄の陰石信仰が盛んであったと言う。同行の岩本先生もこんな陰石を見たのは初めてと、驚きの表情をされる。

ぐるりと裏山に入ると、新 石床神社。寂れた様相ながら、神在す畏れを実感する。

この社に併存する消渴（しょうかち）神社が面白い。消渴とは女性の下病気を指す。江戸期から明治にかけて、京都の芸者、遊女たちが参詣に列をなし、茶店が沿道に並び、華やかな賑わいを見せたと言う。

銀杏の黄葉、桜の紅葉が盛り。中央公園で昼食。ここは筒井 順慶の出城として、二つの城塞のあった所、軍師 嶋 左近（後に石田三成の軍師として関ヶ原で戦死）が、信貴山に籠る松永弾正を討伐した最前線と言われている。



平群神社。土地の産土神、式内社だが鳥居の形から、由緒ある古社である事が伺える。

万葉歌人が残した歌が幾つかあるが、貴人たちが相聞歌を交わしたであろう竜田川沿いを暫く歩く。竜田姫とは秋の季語だが、変わらぬ瀬音に往時を偲ぶ。

この町の主産物「寒菊」の畑地を抜けると楯本神社。主神は雷の神様と言う。奇形の大きな石灯籠が面白い。お寺の五輪塔に似る作りに因果関係があるのだろうか。研究課題だ。

最後に長屋王墓・吉備内親王墓を訪れる。皇位継承に絡み謀反の疑いありと、一家は謀殺される悲劇の人として知られている。岩本先生の卓説によれば、碁敵の負けた用人が密告したのも一因だったとか。私も碁を打つが感情が暴発すると碌なことはない。剣呑、剣呑。

平群を歩くとキリが無い。近い機会にまた歩いて見たい。歴史の暗部を知ると現代に生きる幸せを感じるが、また教えられる事にも限りがない。

ご参加の方々（21名）ご苦労様でした。また世話役の寺田・弓場氏に心より感謝申し上げます。

反省会はいつになく皆さん饒舌で大いに盛り上がった事を付記しておきます。

（川井 秀夫）